学びの広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

●公民館活動　●生涯学習
●文化振興　●学校　●スポーツ

「秋田県家庭教育担当者等研究協議会」
～子どもの心に寄り添う家庭教育支援～

秋田県家庭教育担当者等研究協議会が、11月25日に中央公民館で開かれ、家庭教育支援の現状と今後取り組むべき課題について話し合いました。

話題提供では、鷹巣小学校養護教諭の藤嶋浩子さんが、「子どもの思いを受け止め保健室から発信しているメッセージ」と題して講演しました。藤嶋さんは、心の悩みを抱える子どもが増えている現状から、「ほけんだより」に掲載した宿題の「だっこ」にふれ、親子の会話の大切さや、忙しさの中でも子どもはふれあいを求めていることなどを指摘しました。成長の「根っこ」を太くするために必要な子育て支援について地域全体で理解する機会となりました。

▲藤嶋教諭が話題を提供した研究協議会

生涯学習を通じた地域活動を探る
～北秋地区生涯学習奨励員協議会「研究大会」～

北秋地区生涯学習奨励員協議会の研究大会が、11月26日に阿仁ふるさと文化センターで開かれ、生涯学習奨励員が地域活動について学び合いました。

研究大会では、阿仁合ぶらぶらガイド代表の戸嶋喬（たかし）さんが「生涯学習を通じた地域活動」と題して講話し、阿仁地区の社会教育の歴史や、地域の活性化のため取り組んでいる事例を紹介したほか、阿仁合小学校の５・６年生が観光ガイドとして阿仁地域の鉱山の史跡を案内しました。

ガイド指導をした戸嶋さんは、子どもが自分で調べ、自分の言葉で案内することで、ふるさとを知り、郷土を愛することにつなげたいと思いを述べました。

▲阿仁合小学校の児童から案内を受ける参加者

異文化交流から世界を広げる
～「国際教養大学」施設見学～

中央公民館グッドライフ講座が、12月２日に行われ、「移動研修」として秋田市雄和にある公立大学法人国際教養大学を訪れ、大学内の施設を見学しながら、開学からわずか10年で日本の有力大学へと飛躍を遂げた教育の軌跡について学びました。

国際教養大学は、全ての授業を英語で行い、留学の義務付け、１年次の全寮制など独自の教養教育と、100％の就職内定率で全国的に注目され、昨年度は全国37のスーパーグローバル大学に選定されました。

各国の駐日大使による公開講演会や、24時間開館の図書館など学びの場も充実しており、参加者からは、孫を入学させたいとの声が上がりました。

▲屋根に秋田杉を使用した国際教養大学の図書館

冬の笑楽校（しょうがっこう）

【開催日】1月8日（金）
【場所】中央公民館　【定員】30人
【対象】小学生から一般まで
【参加費】高校生以下500円、一般700円
【申込み】①氏名②住所③電話番号④学校、学年⑤バスの乗車場所⑥アレルギーの有無をお知らせください。
【申込締切】1月4日（月）
【時間割】朝の会　8時50分～9時
1時間目　社会　9時～9時50分「市役所探検隊！～市役所の仕事って？～」
2時間目　総合学習　10時～10時50分「ハッピーマネー講座」
昼休み　家庭　11時10分～12時30分「調理実習」
3時間目　給食　12時30分～13時30分「3時間目に作った料理を食べよう」
4時間目　理科　13時30分～15時「スペシャル理科実験」

○スクールバスを運行します
《行き》大阿仁公民館7時20分→阿仁公民館7時40分→森吉公民館8時10分→合川公民館8時25分→中央公民館8時40分
《帰り》中央公民館15時40分発
問申　生涯学習課　☎62-1130

合川公民館「ろばた講座」

問申　合川公民館　☎78-2114
日時　1月27日（水）　13時30分～
会場　合川公民館
演題　（合川農村環境改善センター）「地方史研究の課題について」
講師　永井　高道（たかみち）さん（北秋田市教育委員会委員長）

放課後児童クラブの募集

問申　生涯学習課　☎62-1130

放課後児童クラブは、保護者が仕事などで日中留守になる家庭に代わって、子どもたちに安全な生活の場と遊びの場を提供しています。

対象児童　保護者が就労等により、日中家庭にいないおおむね10歳未満の児童（ただし6年生まで入会可能）
申込み　入会希望の児童クラブへお早めにお申込みください。
※現在利用されている方も、改めて申込みが必要です。
提出書類　①児童クラブ入会申込書　②児童票
※提出書類は、各児童クラブ、各公民館に設置しています。

今月のおすすめの本を紹介します

問　鷹巣図書館　☎62-3311

▽腰椎手術はこわくない（佐藤秀次著）
▽下町ロケット2ガウディ計画（池井戸潤著）
▽新しい道徳「いいことをすると気持ちがいい」のはなぜか（北野武著）
▽冬の光（篠田節子著）

ふるさとの文化財「縄文時代編」――2

今回は、今年の干支「申（さる）」にちなんだ出土品を紹介します。

○猿顔土器（さるがおどき）（漆下遺跡出土（うるしたいせき））

漆下遺跡は、森吉山ダム建設に先立って調査された縄文時代後期後半（今から約3500年前頃）を中心とする遺跡で、土器や石器などが県内で最も多く出土したと言われています。

その中の一つがこの土器です。これは人面付き土器の一部で、その形態から「猿顔土器」の名称が付けられています。

誰もが一見して「猿」の顔を連想するものと思います。突き出た眉骨と小さな鼻。狭い額。何よりも特徴的に伸びた口は、口をすぼめて大きな声で吠える猿の顔にそっくりです。

大きな耳の表現も目立ちますが、大きく立った耳は子猿の特徴ですので、子猿がモデルかも知れません。当時の縄文人が「猿の顔」を表現したものとすれば、その観察眼に驚かされます。

この土器ですが、頭の上は円形に開いていて、ちょうど蓋のない急須のようになっています。しかし、口の部分の孔は貫通していないため、口は注ぎ口ではありません。首の部分に剝がれた跡があり、特殊な土器の一部分とみられています。

このような猿や動物をモチーフにした出土品は全国で出土しており、北秋田市内でもクマ、イノシシ、トリなどをかたどったものがみつかっています。縄文人は食糧としての獲物でもある動物達をどのように考え、それをかたどったモノにどのような意味を込めたのでしょうか。

▲猿顔土器（漆下遺跡出土）

▽紹介者／北秋田市教育委員会生涯学習課文化係